

## 拠点紹介



### Wu Zhou Taikisha Engineering Co.,Ltd (五洲大気社工程有限公司)

1978年の改革開放政策以降、中国経済は急速に発展してきました。90年代に入り市場経済への本格的な移行が進むと、当社は自動車塗装設備市場への参入を視野に1994年、五洲大気社工程有限公司を北京に設立しました。さらに2年後には、空調設備事業に参入するために上海に支店を構え、今年で設立30周年を迎えます。

同支店では、電気・電子部品や医薬品向けなどのクリーンルーム設備機器および内装工事を中心に事業を展開しています。日系顧客のニーズを的確に捉えるため、日本において中国人技術者のための研修を継続的に実施し、日本語や日本の文化・慣習の習得とともに、技術レベルの向上を図り、中国国内での受注実績を重ねています。近年は、中国で環境規制が厳しくなる状況を見極め、排気処理装置の導入実績を増やし、中国の環境負荷低減に貢献しています。

中国における施工実績を着実に積み上げてきた中で、2022年度は同支店の設立以来、最も大きなプロジェクトを日系の電気・電子部品メーカーから受注しました。



#### FOCUS

中国経済は、2015年にハイテク産業の育成政策を発表して以降、半導体、医薬品、情報通信、自動車などの産業への積極的な投資が継続しています。

2022年12月までのゼロコロナ政策により、成長が一定期間鈍化したものの、同政策の解除を機に、経済活動の正常化が進んでいます。

当社においても、製造過程で高い清浄環境が求められるクリーンルームの設計・施工で得た知見や技術力を生かし、電気・電子部品メーカーや医薬品メーカーなどの設備投資の需要を積極的に取り込むことで、中国における事業をいっそう拡大していきます。



この写真は大気社の海外拠点がある中国の世界遺産、黄山です。  
中国の拠点については、裏表紙をご覧ください。





株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、このたび当社第78期の事業年度（2022年4月から2023年3月まで）を終了しましたので、概況につきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長 長田 雅士

### 当期の事業環境について

当期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に対する防疫と経済活動の両立が進む一方、ウクライナ危機の長期化に伴う資源価格の高騰、欧米におけるインフレ加速に伴う政策金利の引き上げ、米中の緊張関係の高まりなど、先行き不透明な状況が続きました。

米国では、雇用関係は堅調なもの、インフレの進行や金融引き締めなどを背景に、景気後退の懸念が高まりました。欧州においては、行動制限の緩和により景気は回復傾向にあったものの、エネルギー価格の高騰やロシアからのエネルギー輸入制限等が経済活動の制約となりました。中国では、2022年12月までのゼロコロナ政策により、成長が鈍化しました。東南アジアでは、新型コロナウイルスの感染状況は落ち着き、景気の回復傾向が続きました。日本経済は、行動制限の緩和により経済活動が正常化したものの、為替変動やエネルギー価格の高騰などにより、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループにおける市場環境につきましては、海外市場では新型コロナウイルス感染症や資源価格の高騰などの影響による不透明感があったものの、各メーカーによる設備投資は回復傾向が続きました。

一方、国内市場では電子部品や医薬品などのメーカーによる投資が好調であり、首都圏におけるオフィスビルの建設需要や自動車メーカーによる投資も堅調に推移しました。

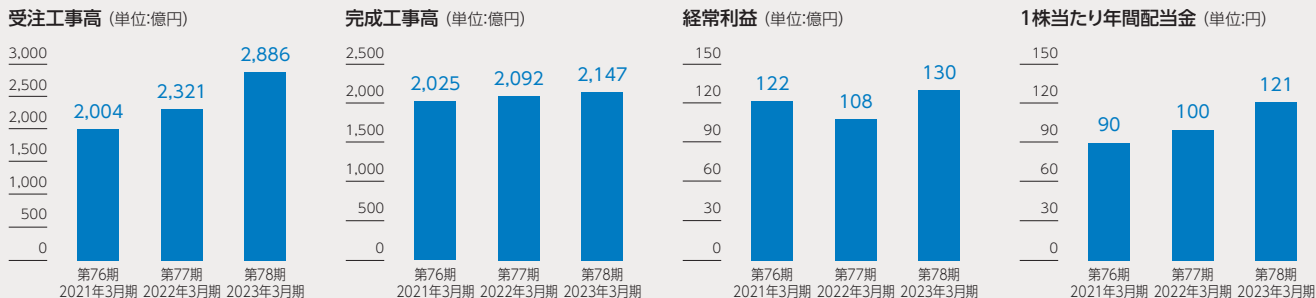
### 当期の業績について

大気社グループにおける当期の業績について、受注工事高は、国内・海外ともに増加し、2,886億70百万円(前期比24.4%増加)となり、うち海外の受注工事高は、1,359億56百万円(前期比53.4%増加)となりました。

完成工事高は、国内は増加したものの海外は減少し、2,147億93百万円(前期比2.6%増加)となり、うち海外の完成工事高は、805億56百万円(前期比20.7%減少)となりました。

利益面につきましては、完成工事総利益は330億71百万円(前期比14億56百万円増加)、営業利益は115億56百万円(前期比21億27百万円増加)、経常利益は130億1百万円(前期比21億83百万円増加)、親会社株主に帰属する当期純利益は79億17百万円(前期比6億68百万円増加)となりました。

### 業績ハイライト



### 中期経営計画の進捗について

2023年3月期から2025年3月期までの3か年における当社グループの中期経営計画の進捗について、ご報告申し上げます。当社は今後もすべてのステークホルダーから高い信頼と評価を得られるよう、経営目標達成のために全力を尽くしてまいります。引き続き変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

基本方針	方向性	2023年3月期実績および進行中の主な取り組み	
環境システム事業	付加価値を生み出し続ける事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型プロジェクトに対応した体制構築と次世代スペシャル人材の育成を推進中。</li> <li>インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limitedへの出資比率引き上げ。</li> </ul>	
	技術の大気社を強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計部門の強化とグローバル人材の育成を推進中。</li> <li>EMS推進のための社内体制構築中。</li> </ul>	
	業務の仕組みの改善と生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>BIMを始めとする現場DX運用検証、業務マネジメントシステムの再整備実施中。</li> <li>当社と協力業者との間にある課題共有、対策検討中。</li> </ul>	
	国内外での確固たる地位の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域別事業戦略に基づいた日系・非日系顧客への営業活動および、非四輪新規顧客へのアプローチを実施中。</li> <li>顧客のニーズに応える固有技術を開発中。</li> <li>海外ネットワークを活用し、現地に根差した事業展開を実施中。</li> </ul>	
塗装システム事業	グローバルな社会課題を意識した開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラル関連の技術開発実施中。カーボンニュートラルに関連した顧客への技術者派遣や技術交流など顧客との協業も同時に推進中。</li> <li>国内外開発拠点・ラボ・ショールームのグローバル展開および連携強化継続中。開発精度の向上を図るため、ラボテストの状況を拠点間で共有するリアルタイムコミュニケーションシステムの導入を検討中。</li> </ul>	
	業務の仕組みの改善と生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>3D図面およびBIMの活用展開を実施中。</li> <li>施工現場での遠隔管理、業務効率化の取り組み等継続実施中。</li> <li>e-ラーニングをベースとしたローカルスタッフの教育による設計レベルアップを推進中。</li> </ul>	
	知的財産戦略の立案・推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社の知財・無形固定資産を活用した知的財産戦略を検討中。</li> <li>知財業務の社内教育および知財に関する規程類の整備実施。</li> <li>新規事業関連特許の出願・権利化を推進中。</li> </ul>	
新たな価値創出への挑戦	顧客視点の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年4月に、アクセスの良いR&amp;Dサテライト「[TAIKISHA INNOVATION GATE Shinjuku]」を本社に開設し、潜在的顧客ニーズの把握と、新たな価値を創造する製品開発を検討中。</li> </ul>	
	オープンイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>新研究開発センター計画中(2024年5月完成予定)。</li> </ul>	
	強みとなる技術の水平展開	グリーン機器事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>精密温調チャンバー<sup>*1</sup>の受注活動推進中。</li> <li><sup>*1</sup> 半導体製造において装置まわりや、超精密加工や測定、検査を可能にする環境空間を構築する設備</li> <li>排気処理装置のラインナップ拡充を実施中。</li> </ul>
		オートメーション事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>オートメーション領域の拡大に向けた取り組みを実施中。</li> <li>新規顧客獲得のための活動として、展示会を活用した活動を継続実施中。</li> <li>高塗着効率技術の市場投入に向け、パフォーマンス向上のための各種検証実施中。</li> </ul>
植物工場事業		<ul style="list-style-type: none"> <li>自社工場にて実証実験継続中。市場開拓の戦略については継続検討中。</li> </ul>	
新規事業の開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学、研究機関、民間企業と、市場調査に基づき、社会実装時のビジネスモデルを想定した新規事業に資する共同研究を実施中。</li> </ul>		
変革・成長を支える経営基盤の強化	人的資本の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社事業の推進に合致する意欲・能力の高い人材の獲得(新卒採用75名、中途採用27名)。</li> <li>上位職者層を長期計画的に育成するための育成制度・顕彰制度の整備と運用開始。</li> <li>キャリアアップ制度のブラッシュアップ、人材データベース活用による効果的な適材適所の配置と業務付与を一部開始。</li> <li>社内風土向上の一環として上司だけでなく、同僚や部下からの評価なども含めた360度フィードバック制度を一部開始。拡大検討中。</li> <li>[健康経営優良法人(ホワイト500)]認定取得(総合順位301~350位)。</li> <li>長時間労働対策として主に現場業務に従事する社員の実態把握と、課題および職場環境改善対策案を検討中。</li> </ul>	
	新たな価値提供に向けたデジタル戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計・積算・施工管理などのプロジェクトにおける各工程の生産性向上のためのデジタル化・DX化を推進中。設備BIMの標準化と普及・推進に向けた「設備BIM研究連絡会」に参加し活動開始。</li> <li>グローバルなIT・DX体制構築検討中。そのうち、セキュリティに関わるIT管理体制の構築開始。</li> <li>デジタル人材の育成強化策を検討中。</li> </ul>	
グループガバナンス体制強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業ごとの資本収益性を図る経営指標の導入を検討中。</li> <li>事業ポートフォリオマネジメントを意識した管理を組織的に実施するための「事業投資ガイドライン」の運用開始。</li> <li>関係会社の取締役会・監査機能の体制および責任範囲の整理を実施。業務プロセスをより明確にし、現地取締役会への報告等によるモニタリング強化を検討中。</li> </ul>		



## 事業の概要

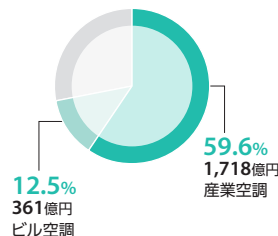
### 環境システム事業

経営資源の重点配分とお客さまへの積極的な提案活動により、さらなる受注拡大を目指します。

当事業部は、クリーンルームなど工場向けの空調設備を設計・施工する産業空調分野と、オフィスビルなどの空調設備を設計・施工するビル空調分野を国内外で展開しています。今後の取り組みとしては、電気・電子部品、化学・薬品、医療器具など、高い技術力を発揮できる分野に注力し、「技術の大気社」を強化します。同時に脱炭素・低炭素化に取り組む国内外のお客さまにしっかりと寄り添い、カーボンニュートラル実現を目指します。

さらには、海外市場で今後投資が期待できる未進出国への事業エリア拡大など、事業領域の拡大を目指していきます。

● 環境システム事業 受注高  
累計期間:2022.4.1~2023.3.31



### Green Technology System Division

#### TOTO ベトナムに新工場が竣工

2022年6月、ベトナムフンイエン省にTOTOの新工場が竣工しました。衛生陶器のグローバルな需要伸張に対応するため、本施設は品質ならびに生産能力向上や最新鋭の高効率焼成窯導入などによる脱炭素への貢献を目指しています。当社は衛生陶器の乾燥室設備を請け負い、短期間での品質向上に資する生産ライン立ち上げに貢献しました。

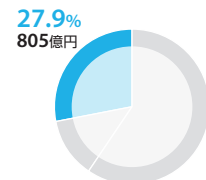


### 塗装システム事業

経営資源の重点配分と海外グループ会社との連携により、さらなる受注拡大を目指します。

当事業部は、国内外の自動車メーカーを主要なお客さまとして、自動車塗装プラントの設計・施工を行い、この分野で世界トップクラスの売り上げを誇ります。今後の取り組みとしては、持続的成長を支える事業ポートフォリオの構築に向けて日系自動車メーカーとのより強固な関係性構築と、海外グループ会社との連携や研究所の拡充・活用により非日系自動車メーカーのニーズへの対応力を強化するとともに、オートメーション事業領域を拡充し、航空機・鉄道車両のような自動車以外の市場を拡大していきます。加えて、高い環境目標を設定している自動車メーカー各社の基本戦略に歩調を合わせ、カーボンニュートラル実現を目指します。

● 塗装システム事業 受注高  
累計期間:2022.4.1~2023.3.31



### Paint Finishing System Division

#### Toyota Motor Manufacturing de Guana juato (TMMGT)の工場に「i-Dry Scrubber」を納入

2022年12月、トヨタ自動車の車両生産子会社TMMGTのメキシコ工場に、水を使用しない「i-Dry Scrubber」(段ボールフィルター式ブース)を納入しました。これは車体塗装時にブース内に飛散した塗料を段ボールフィルターにより回収するシステムです。本設備の設置により、省エネルギー(環境負荷軽減)に貢献しました。



## TOPICS

### インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Roomsへの出資比率引き上げ

当社は、インドの連結子会社Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limited(2020年7月にパネル製造据付技術と空調設備技術の融合のため子会社化)への出資比率を74%から100%へ引き上げました。

同社は、インドの製薬メーカーを主要顧客とし、クリーンパネル等の製造から施工(据付)まで一貫して行っていますが、近年はインド国内への販売に留まらず、周辺国や米国等へも輸出を行っています。

#### ■ 出資比率引き上げの経緯

インド経済は人口増加、都市化の発展、経済改革などを背景に、今後も底堅い成長が見込まれています。インドにおけるクリーンルーム市場は、現在は医薬品向けの工場が大半ですが、今後はインド政府の産業誘致・育成政策に基づく半導体・リチウムイオン電池などの製造施設向けの需要拡大も期待されます。従来、当社の環境システムの海外事業は、

中国およびASEANの日系企業を主要顧客としていましたが、今回の出資比率引き上げを機に、当社が持つ大手製薬メーカーへの高いブランド力と、日本で豊富な医薬品向けの工場実績を持つ当社の知見を組み合わせ、インドにおいて、付加価値が高いクリーンルーム建設市場における事業拡大戦略をいっそう推進します。



クリーンパネルによる施工施設(壁・天井・窓・ドア等)

### IoT・AIを活用した自動車塗装ラインの監視・要因解析システム「i-Navistar」を開発～自動車塗装ラインを中心に導入 新たにEMS機能を追加へ～

#### ■ 開発の背景と狙い

自動車塗装ラインには多種多様な設備が導入され、生産現場においては、熟練技術者の知見をもとに長時間かけてそれらのデータ分析と検証が繰り返され、不具合が発生した際の原因の特定も、多くの場合人の手に依存している現状にあります。こうした生産性や品質上の課題解決のために、当社では、従来よりIoT・AIを活用し稼働停止および品質不良が発生した際の要因解析を行うシステム「i-Navistar」の開発に注力してきました。

#### ■ 新たな機能

自動車メーカー各社の脱炭素化への取り組みに貢献すべく、「無駄なエネルギーの見える化、シミュレーター機能を使った最適エネルギー管理」を目的とした塗装工場の「エネルギーマネジメントシステム(EMS)」機能の開発を進め、すで

に多くの自動車メーカーから高い関心が寄せられています。世界各地で、今後ますます脱炭素化への取り組みが加速していくに伴い、EMS機能へのニーズも高まっていくことが予想されています。

#### ■ 「i-Navistar」の従来の機能

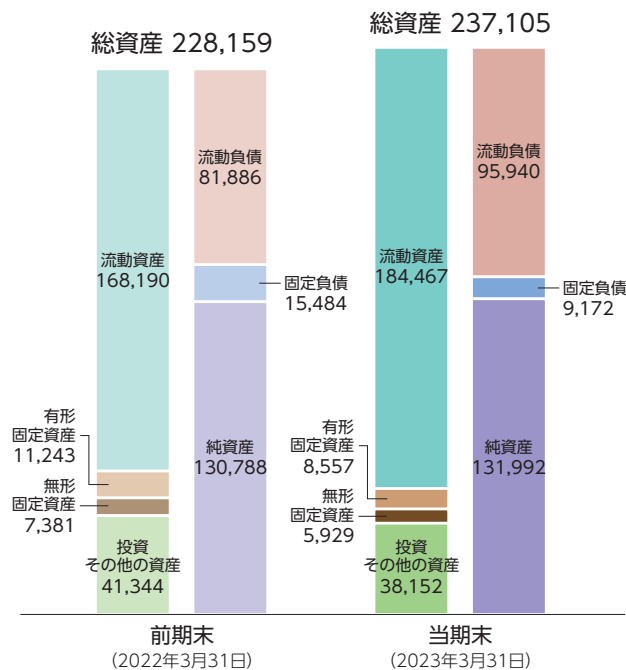
- ①稼働解析システム:  
設備の運転状態をセンサーにより常時監視、測定値の傾向から故障を予測。効率の良い保全作業を可能に。
- ②品質解析システム:  
収集された稼働・品質データをもとに品質不良の要因を解析、要因特定までの時間を大幅に短縮。熟練技術者への依存度の軽減を実現。



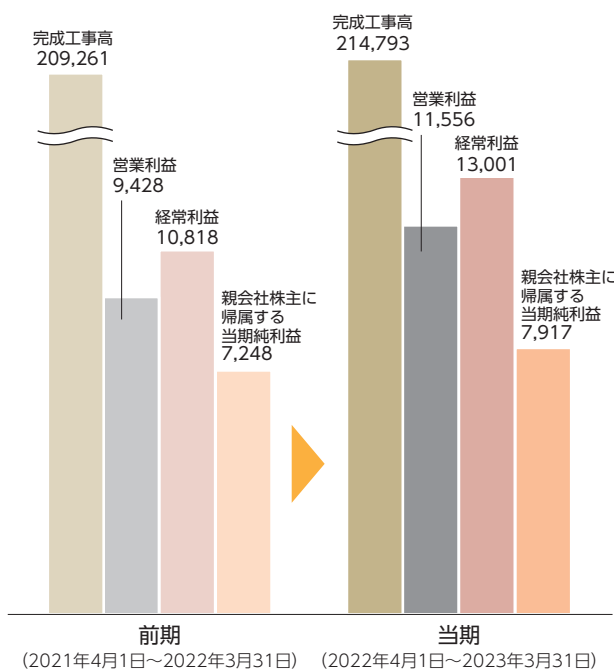


# 連結財務諸表

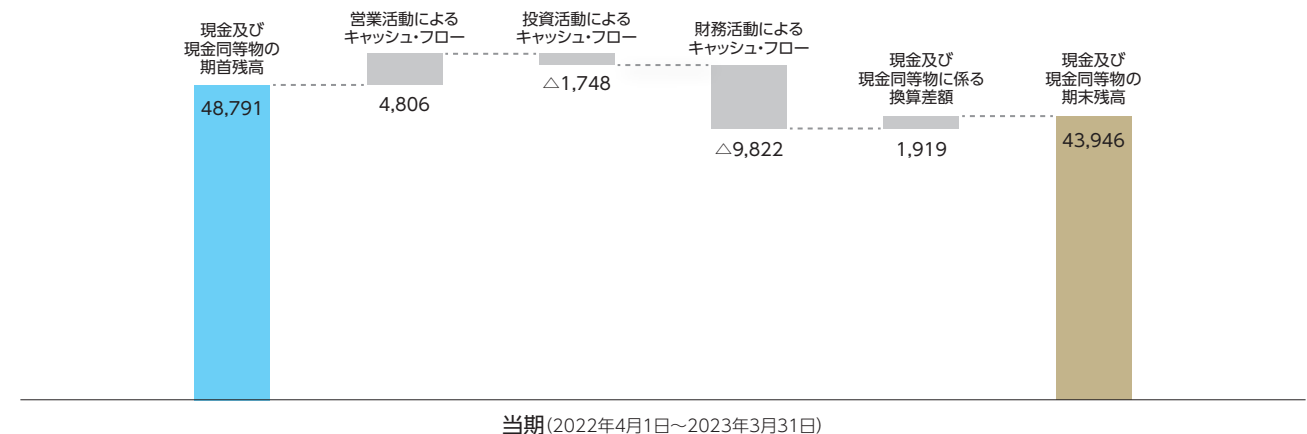
## 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



## 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



# 株主情報

## 会社概要 (2023年3月31日現在)

商号 株式会社 大気社 (Taikisha Ltd.)  
 創業 1913年4月10日  
 設立 1949年7月7日  
 資本金 6,455百万円  
 従業員数 (個別) 1,611名 (連結) 4,890名  
 グループ企業、取締役および監査役、株式情報については当社ウェブサイトをご覧ください。  
<https://www.taikisha.co.jp>



【グループ企業】  
<https://www.taikisha.co.jp/corporate/information/group/>  
 トップページ > 企業情報 > グループ企業

【取締役および監査役】  
<https://www.taikisha.co.jp/corporate/information/officer/>  
 トップページ > 企業情報 > 大気社グループについて > 役員紹介

【株式情報】  
<https://www.taikisha.co.jp/ir/stock/info/>  
 トップページ > 株主・投資家情報 > 株式・株主情報 > 株式情報

## 株主メモ

証券コード 1979  
 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
 特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社  
 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話お問合せ先 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)  
 公告方法 電子公告により行います (当社ウェブサイトに掲載)。  
 ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

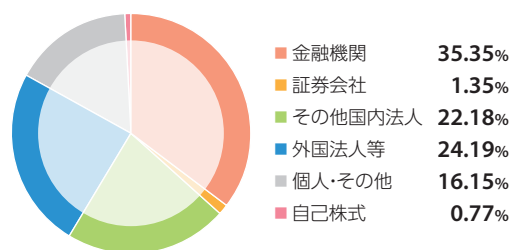
## 株式状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数 100,000,000株  
 発行済株式の総数 33,582,009株  
 株主数 3,386名

## 大株主 (所有株式数上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,488	19.47
株式会社建材社	1,730	5.19
大気社社員持株会	1,175	3.53
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,174	3.52
住友不動産株式会社	1,134	3.41
大気社協力会社持株会	1,066	3.20
ザバンク オブ ニューヨーク メロン (インターナショナル) リミテッド 131800	1,041	3.12
株式会社第二建材社	1,000	3.00
日本生命保険相互会社	866	2.60
株式会社みずほ銀行	659	1.98

## 所有者別株式分布状況 (株式数比率)



(注) 1.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。  
 2.持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。